

2021年5月2日主日礼拝

大井バプテスト教会

説教題「惜しまず綱を伸ばせ」イザヤ書54章2節、7～10節

主任牧師 加藤 誠

「あなたの天幕に場所を広く取り／あなたの住まいの幕を広げ／惜しまず綱を伸ばし、杭を堅く打て」(イザヤ書 54 章2節)、「山が移り、丘が揺らぐこともあろう。しかし、わたしの慈しみはあなたから移らず／わたしの結ぶ平和の契約が揺らぐことはない」と／あなたを憐れむ主は言われる」(同 10 節)。

バプテスト誌5月号の表紙に、平塚バプテスト教会の「こひつじ食堂」の取り組みの様子が載っていました。ご覧になった方も多いことと思います。

平野健治牧師に尋ねると、「こひつじ食堂」は子どももおとなも利用できる地域食堂として昨年の10月から毎月一回、第四金曜日に礼拝堂を開放して始められたとのことでした。もともと平塚教会はホームレス支援の炊き出しをされていて、地域のボランティアの方が一緒に担っておられたようですが、その働きが下敷きになって、地域で食事を必要とされている方、一緒に誰かと食べたいと思っておられる方に食卓を提供する取り組みとして「こひつじ食堂」が始まったようです。昨年の12月の第四金曜日はちょうどクリスマスで、地域の方々とイエス・キリストの誕生をお祝いする食卓にもなったとのこと。残念ながらコロナのために今年の1月からはお弁当に切り替えたものの、最初5、60人だった利用者が毎回増え続け、2月は一食200円のお弁当が百食、わずか四十分で完売。

教会として地域のために何かできたらという思いで始まった活動ではあるけれど、始めてみると多くのボランティア・食材・お菓子・寄付などが、地域・市民団体・企業など、さまざまな場所から集まってきていたのだそうです。

平野牧師はこう語っています。「教会が地域を助けるだけでなく、地域の助けを受けながら、その活動を行う。教会は相互関係の中に生かされています」と。

教会が自分たちの力だけで地域に何かプログラムやサービスを提供しようとするのではなく、地域の方々の応援を受けながら、地域の人々に必要な働きを、地域の方々と一緒に担っていく。教会がそのような相互関係の中に生かされることを喜びながら神さまの働きを担う。その姿に深く教えられる思いがしました。

平塚教会は教会員が50名ほどの教会であり、壮年のアクティブな教会員は平野牧師以外には一人しかおられません。いわゆる「マンパワー」を考えると地域食堂をやることは「とても無理」という結論が出てもおかしくない状態です。主イエスがあの五千人を超える人々と小さな食事を分かち合われた場面で、主イエスが「あなたたちの手で人々にパンを与えなさい」と弟子たちに言われた時、彼らは「そんなこと無理です。二百デナリ（今の価値に換算したら二百万円くらいでしょうか）ものお金が必要です！」と答えました。まさにその弟子たちと同じ状況にあったのです。けれども「パンはいくつあるか見て来なさい」と言う主イエスの言葉に、彼らが五つのパンと二匹の魚という小さな一人分の弁当を差し出した時、主イエスは

その小さな弁当を喜んで祝福し、神さまの前で一緒に祈りをささげられました。ほんとうに不思議にも、その時、五千人を超える人びとのお腹が満たされたのです。それと同じように平塚教会も「今、自分たちの手の中にあるものを差し出そう。主イエスが必要とされるなら、主イエスが祝福し、必要なパンと力を備えてくださる」という信仰をもって踏み出した時、その働きは地域の方々の応援を得て、地域の人々の必要に応える働きとして祝されているのではないかと思います。

大切なことは「自分たちの力では無理！」と結論づけてしまう前に、まず「神さま、あなたが必要とされている働きに、私たちを用いてください。そして必要な働き人を起こしてください」と共に祈ることなのではないでしょうか。

今朝、私たちはイザヤ 54 章を開きました。バビロンに捕囚されて、小さくされたイスラエルの人々に語られた神さまの言葉です。一度は「もう自分たちに将来はない」と、すっかり自信を無くし、下を向いていた人々に、神さまが語りかけているのです。「あなたの天幕に場所を広く取り、あなたの住まいの幕を広げ、惜しまず綱を伸ばし、杭を堅く打て」と。「いやいや、でも神さま、私たちは捕らわれの身なのです。私たちはかつてあなたから与えられた大切な土地を台無しにしてしまったような不信仰極まりない者たちです。身分相応をいう言葉があるように、自分たちが住む天幕(テント)の大きさは自分たちがよく知っています」という人々に、それでも神さまは語りかけていきます。「あなたたちはわたしに捨てられたとか、激しい怒りを受けたと思っているかもしれないが、わたしはどこしえの慈しみをもって、深い憐れみをもって、あなたたちを引き寄せる」と。特に 10 節の言葉がすごいですね。「山が移り、丘が揺らぐこともあろう。しかし、わたしの慈しみはあなたから移らず／わたしの結ぶ平和の契約が揺らぐことはない／あなたを憐れむ主は言われる」。山が移り、丘が揺らぐようなことがあっても、けして揺らぐことのない、わたしの平和の契約を信じなさい！と熱く語りかけておられる神さまの言葉です。なんとうれしく熱い語りかけでしょうか。

捕囚という厳しい経験をし、砕かれ、小さくされたイスラエルだからこそ、そのあなたたちに担ってほしい働きがあるのだ。あなたの天幕に場所を広く取り、惜しまず綱を伸ばしなさい！と、主なる神さまはイスラエルの人々に語りかけられたのでした。

新礼拝堂建築が順調に進み、先日は池上通り側に十字架が立てられました。この十字架のもとで、私たちはイエス・キリストの喜びの知らせをどのように地域の方々に紹介し、証ししていくのでしょうか。新しい礼拝堂が神さまの働きに用いられることをみんなで祈り願っていきたいのです。そのとき何より大切にしたいのは、「惜しまず綱を伸ばせ」という主の呼びかけに応えて共に祈ることです。

「新しい礼拝堂が、この地域の方々との間で、あなたの御名をたたえる器とされますように。神さま、あなたが必要とされる働きを起こし、その働きを一緒に担う力を与えてください」と、その祈りをまず共にささげていきたいのです。